K－544

米沢市埋蔵文化財報告書　第48集

一ノ坂

一ノ坂遺跡発掘調査概報

第 5 集

大型住居跡復元図

平成７年３月

1995

米沢市教育委員会

米沢市埋蔵文化財報告書　第48集

一ノ坂

一ノ坂遺跡発掘調査概報

第　5　集

平成７年３月

１９９５

米沢市教育委員会

序　　文

本報告書は一ノ坂遺跡第８次調査の成果をまとめたものです。一ノ坂遺跡は平成元年度の個人住宅建設工事に伴う緊急発掘調査として実施されました。この調査によって、大型住居跡と多量の遺物が発見されました。

大型住居跡の発見は国内最長の規模で、平成２年度からは文化庁の補助受けながら、学術調査として今日まで確認調査を継続してきたものです。これまでの調査で大型住宅跡の他に国内初の連房型住居跡、墓壙などが検出され、集落全体の様子が少しづつ明らかにされようとしています。

とりわけ、遺物は石器を中心に百万点以上確認されています。分析の結果、石器を製作していた集落跡であることが判明しています。しかも一ノ坂遺跡で製作された石器は、関東方面にまで確認されています。

今回の第８次調査では、これまで未確認の南西部箇所を調査し、住居跡と集落の範囲を確認しました。

今後は、遺物を整理し報告するとともに保存、活用に対して関係機関と充分協議しながら進めてゆく所存であります。関係各位の一層のお力添いをお願い申し上げます。

最後になりましたが、今回の調査にあたり格別のご指導を賜りました文化庁、山形県教育庁文化財課、また地権者の丸山亥吉氏、伊藤忠士氏の多大なるご協力に対し心から御礼を申し上げます。

平成７年３月

米沢市教育委員会

教育長　相田　實

本　文　目　次

（表紙題字は米沢市教育委員会教育長　相田　實による）

序　文
例　言
目　次
1．遺跡の位置と調査に至る経過 …… 1
2．調査の経過 …… 7
3．検出遺構 …… 10
4．出土遺物 …… 15
5．ま と め …… 16
参考文献 …… 18
一ノ坂遺跡調査一覧表 …… 19
報告書抄録 …… 20

挿　図　目　次

第1図　一ノ坂遺跡位置図、グリット配図 …… 2
第2図　一ノ坂遺跡第8次調査Bトレンチ遺構平面図 …… 4
第3図　一ノ坂遺跡第8次調査区全体図 …… 5・6
第4図　一ノ坂遺跡第8次調査区土層想定図（1） …… 8
第5図　一ノ坂遺跡第8次調査区土層想定図（2） …… 9
第6図　一ノ坂遺跡第8次調査区土層柱状、土層想定図（3） …… 11
第7図　一ノ坂遺跡遺構全体図 …… 13・14
第8図　一ノ坂遺跡復元想定図 …… 17

図　版　目　次

第一図版　一ノ坂遺跡第8次調査の発掘、出土土器、発掘風景
第二図版　一ノ坂遺跡第8次調査の発掘、Bトレンチ

例　　言

1．本報告書は、文化庁の国庫補助を受けて、平成６年度（1994）に実施した一ノ坂遺跡「大型竪穴住居跡」周辺の開発予定地域、調査概報第５集である。

2．発掘調査は、米沢市教育委員会が主体となって、大型竪穴住居跡確認に伴う周辺開発予定地域の第８次調査として平成６年４月18日～同年５月10日の期間で実施したものである。

3．調査体制は下記の通りである。

調査総括	船山豊弘（文化課長）
調査担当	手塚　孝（文化課埋蔵文化財係主任）
調査主任	菊地政信（文化課埋蔵文化財係主任）
作業員	遠藤忠一、小浦文吉、武田房次郎、菊地そのえ
	平野洋子、松本三郎、丸山トシ子
事務局	我妻淳一（文化課長補佐）
	月山隆弘（文化課埋蔵文化財係主事）
調査指導	文化庁、山形県教育庁文化財課
調査協力	丸山亥吉、伊藤忠士

4．挿図・図版の縮尺は各図面、写真にスケールで示した。

5．本書の作成は菊地政信が担当した。全体的に手塚孝が総括した。責任校正は我妻淳一がその責務にあたった。

6．土器拓影図の各遺物についてある番号は、写真図版と同一番号である。

7．遺跡等の土色については、「新版標準土色表」（小山、竹原1973）を参考にした。

1．遺跡の位置と調査に至る経過

本遺跡は、米沢市街地西方約２㎞に位置し、矢来一丁目に所在する。（第１図参照）遺跡周辺の地形は、笹野山丘陵の西端、羽山山麓から東に張り出した暖かな舌状微高地で、標高259～261ｍを測を測る。現況は北東部が住宅、南西部は畑、果樹園等が広がる。

遺跡の調査は、平成元年度（1989）に本遺跡内での住宅造成計画に伴い、本市教育委員会が実施した発掘調査が最初であり、この調査により、国内最長の大型竪穴住居跡１棟、石器を中心とした遺物138万点以上を検出した。これらの事項から、文化庁並びに県教育庁文化財課の指導のもと、確認調査や遺構の保存、出土遺物の整理を進め、今回、平成６年度の調査は第８次調査にあたる。現地での確認調査は第８次調査で終了する予定であり、一連の確認調査の概要を下記に述べておく。調査箇所、遺構配置については第８図を参照願う。

１）第１次調査

a　調査期間　平成元年５月12日～同年６月30日

b　調査面積　800㎡

c　検出遺構　大型竪穴住居跡（石器工房跡）１基、構状遺構、集石遺構。

d　出土遺物　石鏃228点、石錐156点、石篦10点、石匙250点、両尖匕首、石錘230点（未点成、断念、製作途上を含む）、総器516点、剝片138万点、土器片9,560点、計1,390,950点。

e　参考文献　米沢市埋蔵文化財調査報告書第27集「遺跡詳細分布調査報告書第３集」18頁～25頁

f　年　　代　縄文前期初頭（関山式併行）約6000年前。以下省略

２）第２次調査

a　調査期間　平成２年（1990）２月22日～同年３月３日

b　調査面積　221㎡

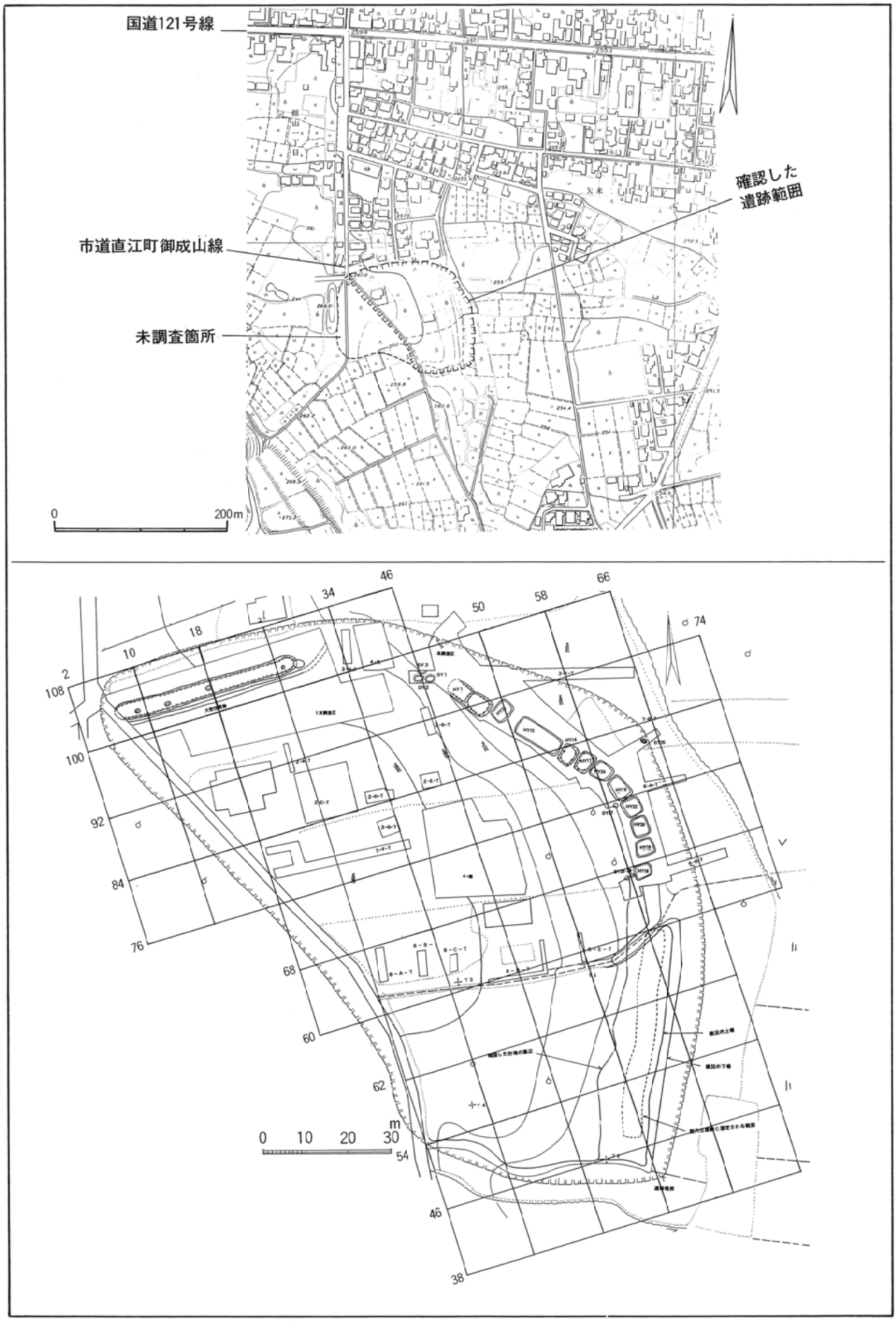
c　検出遺構　風倒木跡５基、屋外炉２基。

d　出土遺物　剝片20点、土器片15点、計35点

e　参考文献　米沢市埋蔵文化財発掘調査報告書第四集18頁～25頁

３）第３次調査

a　調査期間　平成２年４月９日～同年４月11日、同年５月31日～同年６月14日



第１図　一ノ坂遺跡位置図、グリット配図

b　調査面積　106㎡

c　検出遺構　墓壙３基、集石遺構１基

d　出土遺物　石鏃、石錐、石匙等の完成石器56点、剝片13,942点、土器片383点、計14,336点。

c　参考文献　米沢市埋蔵文化財調査報告書第30集「一ノ坂遺跡発掘調査概報第１集」

４）第４次調査

a　調査期間　平成２年11月１日～同年12月21日

b　調査面積　200㎡

c　検出遺構　竪穴住居跡９基　土壙２基

d　出土遺物　石鏃、石錐、石錐、石匙等の完成土器62点、礫器36点、剝片642点、土器片690点、計1,430点。

e　参考文献　米沢市埋蔵文化財調査報告書第30集「一ノ坂遺跡発掘調査概報第１集」

５）　第５次調査

a　調査期間　平成３年（1991）11月５日～同年11月28日

b　調査面積　200㎡

c　検出遺構　竪穴住居跡９棟、土壙２基

d　出土遺物　石鏃、石錐、石錐、石匙等の完成土器62点、礫器36点、剝片642点、土器片690点、計1,430点。

e　参考文献　米沢市埋蔵文化財調査報告書第35集「一ノ坂遺跡発掘調査概報第２集」

６）　第６次調査

a　調査期間　平成４年（1992）10月28日～同年11月20日

b　調査面積　270㎡

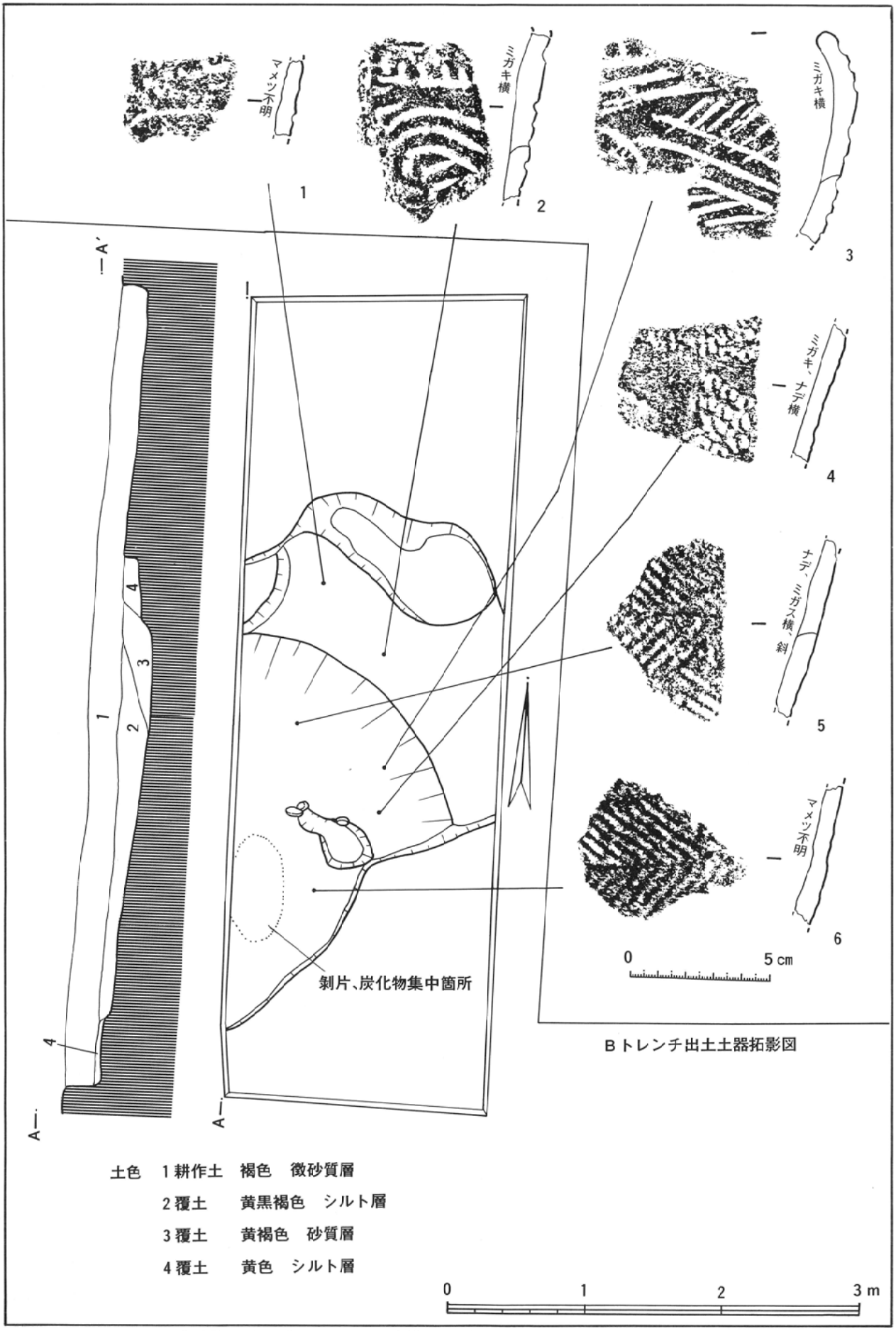
c　検出遺構　竪穴住居跡４棟（連房型竪穴住居跡の一部）。

d　出土遺物　石鏃、石錐、石錐、石匙等の完成土器39点、剝片309点、土器片237点、計585点。

e　参考文献　米沢市埋蔵文化財調査報告書第38集「一ノ坂遺跡発掘調査概報第３集」

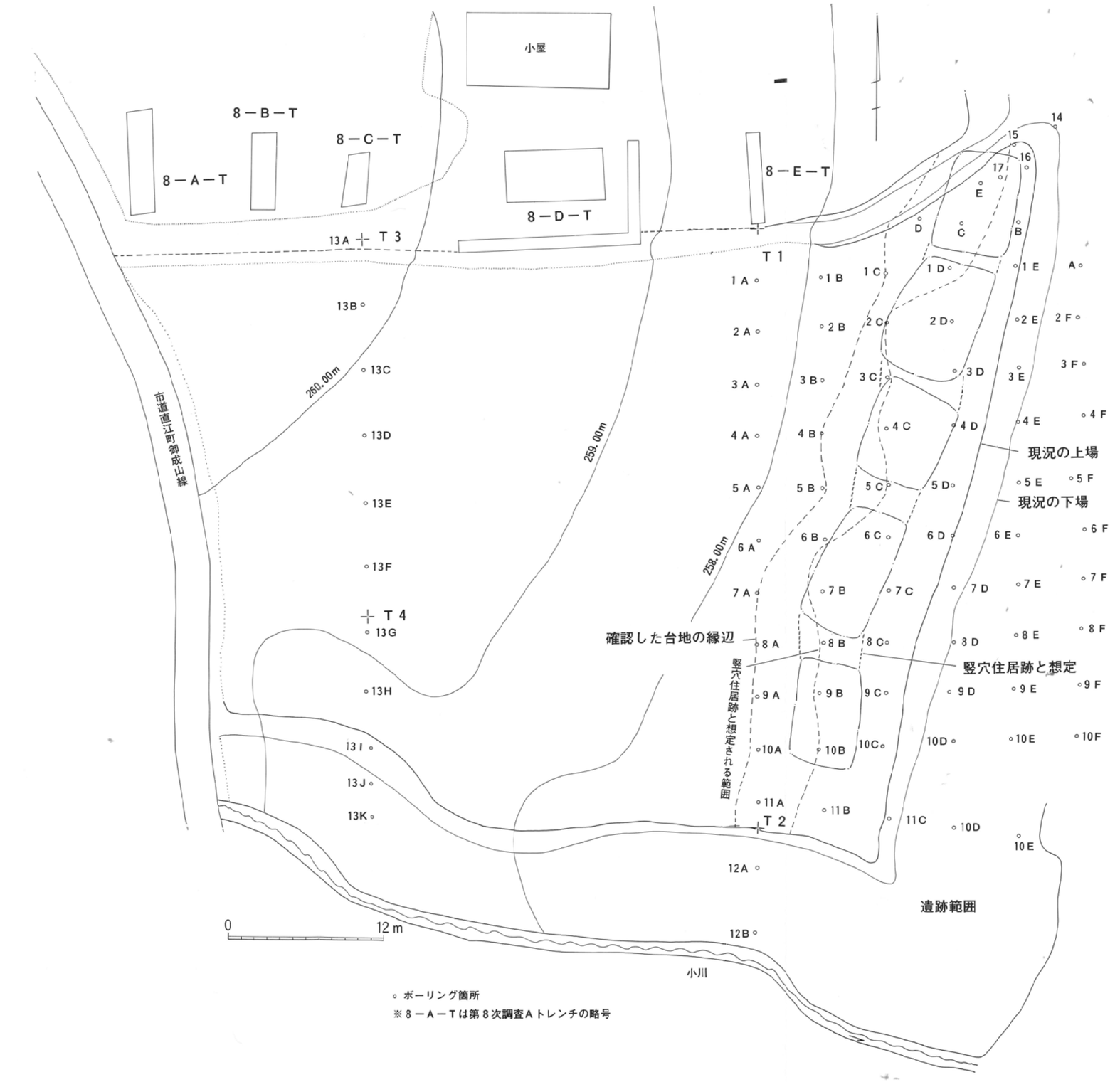
７）　第７次調査

a　調査期間　平成５年（1993）４月15日～同年６月19日



Bトレンチ出土土器拓影図

第2図　一ノ坂遺跡第8次調査Bトレンチ遺構平面図



◦ ボーリング箇所

※8－A－Tは第8次調査Aトレンチの略号

第3図　一ノ坂遺跡第8次調査区全体図

b　調査面積　630㎡

c　検出遺構　竪穴住居跡１棟、連房型竪穴住居跡（８棟の竪穴住居跡で構成)、墓壙３棟、土壙１基、旧河川跡１基。

d　出土遺物　石鏃、石錐、石銛、石匙等の完成石器92点、剝片714点、土器片220点、計1,026点。

e　参考文献　米沢市埋蔵文化財調査報告書第40集「一ノ坂遺跡発掘調査概報第４集」

第１次調査から第７次調査までの調査面積は2995㎡、遺物総数は1,413,430点である。大型住居跡、連房型竪穴住居跡の両方とも埋め戻して、現況保存しており、前者については土地を買収して保存区域としている。

２．調査の経過

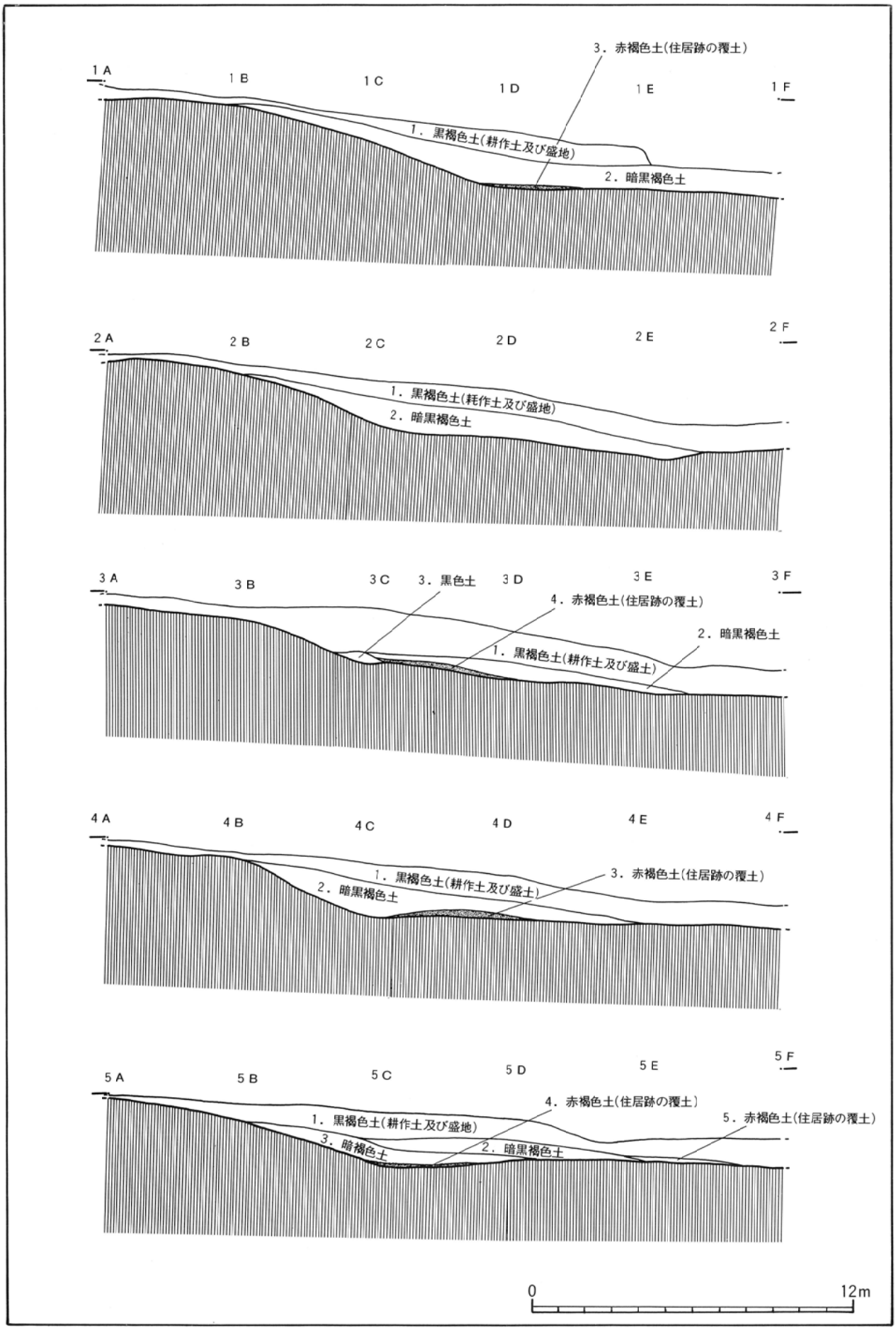
今回の調査区は第１図で示すグリット配図、Ｇ26～58、38～68の範囲にあたり、大型住居跡の南方部に位置す。この地域の大半は果樹園で占められ、試掘抗は困難であることから、ボーリングを主体とする調査であった。したがって試掘抗の可能な畑地にはトレンチＡ～Ｅを配することにし、平成６年４月18日から開始した。トレンチ箇所は第３図に示すように、舌状台地の上場地点であり、Ｂトレンチ以外からは遺構、遺物は確認されなかった。

ボリング調査は同図で示す箇所、約3000㎡を対象として実施した。最初にＴ１～Ｔ４を配置し、現況図を作成した後にボリング調査の結果を現況図に記入する方法で調査を進めた。

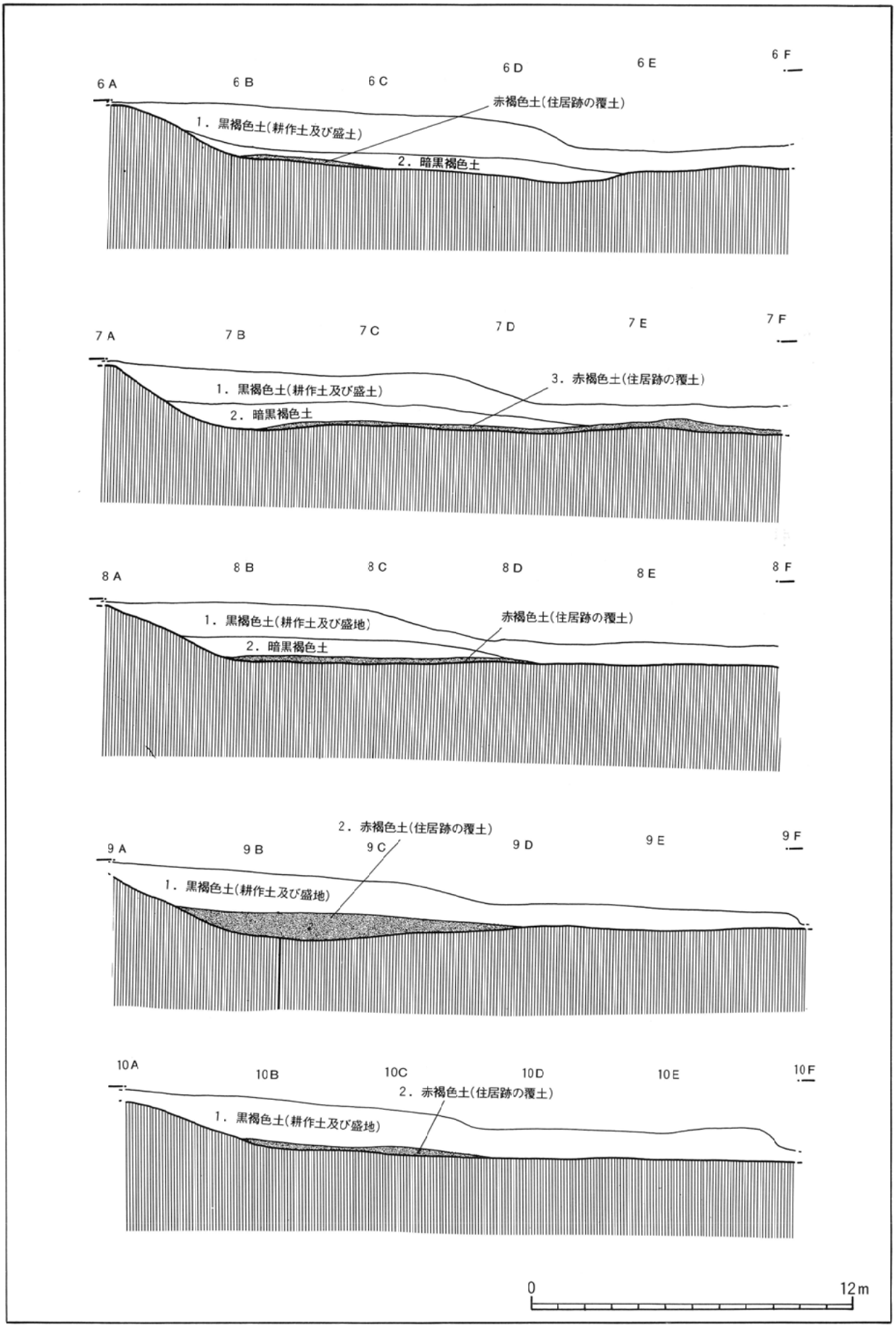
本遺跡は遺構、特に住居跡覆土には赤褐色の土を含む特徴が有り、この土色を採集した地点には前述した様に遺構が存在する可能性がきわめて高い。この事項に十分注意して、ボーリングを実施した。

台地の上場は果樹園造成の際に西方から東方へ土砂を移動したとの情報があり、それを示す結果が得られた。台地上場縁辺が現況よりも、西方部に認められた。従って、遺構が存在する箇所の表土は盛土が大半を占め、遺構もこれまでの調査結果から得られた様に段丘下部に沿って認められる。

南方部の小川が流れる段丘下部は砂利層で遺構はないものと判断される。現地説明会は５月10日に開催した。同日の午後からトレンチ箇所65㎡の埋め戻しをおこない今回の調査を終了した。



第4図　一ノ坂遺跡第8次調査区土層想定図(1)



第5図　一ノ坂遺跡第8次調査区土層想定図

3．検出遺構

今回の調査範囲は第３図に示した範囲であり、南北62ｍ×東西72ｍを測る地域を調査対象とした。トレンチ調査が可能な北部の畑地にはＡ～Ｅの５箇所にトレンチを配し実施した。

畑地の南側一帯は果樹園で占めらる。トレンチ調査は立木の根をいためるとの判断からボーリングによる土砂採集の方法で調査を実施することにした。幸いにも本遺跡は遺構覆土土色には赤褐色を含む特徴を有すことから、この土色が採集できれば、遺構、特に住居跡の可能性が高いと判断する目安基準となる。

トレンチ調査区とボーリング調査区に分けて説明を加えたい。

○トレンチ調査区［第１区～第３区参照］

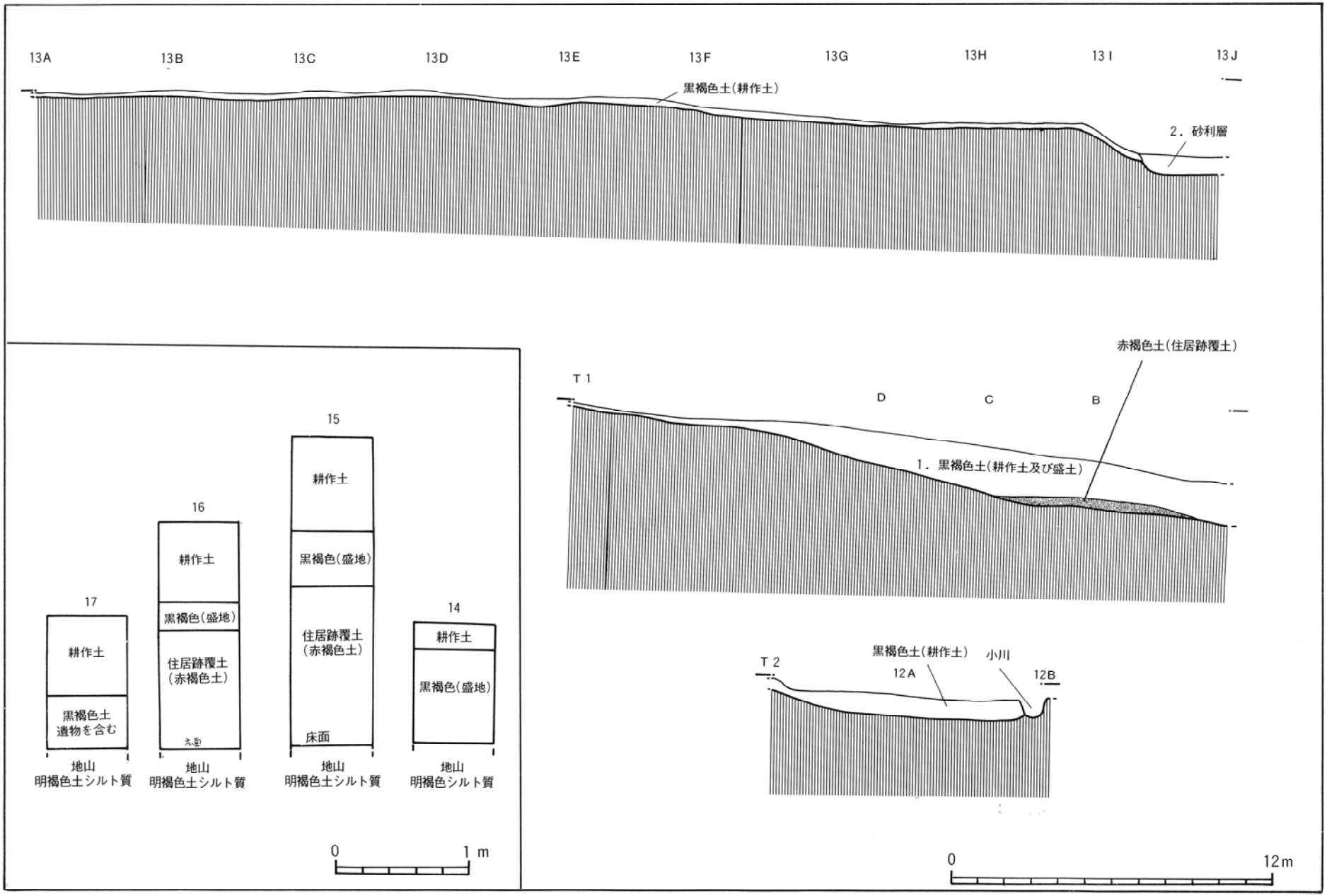
いずれのトレンチも耕作土の下は地山となる黄褐色土であり、遺構、遺物を確認したのは第２図に示したＢトレンチだけであった。耕作土の深さは20～40cmを測り、東側にいくにしたがって、耕作土が深くなる傾向を示す。

Ｂトレンチの遺構は不整形状を呈すおちこみであり、プランから判断して自然の「凹」が木の根等の影響で変容された遺構と考えられる。斜面から少量の炭化物、燃土、剥片、土器片が出土している。剥片は第２図の点線で示した小範囲に集中して確認された。剥片、特にチップが大半を占める。出土した遺物の点数土器片34点、剥片44点、凹石１点、磨斧の破片１点であり、土器片に関しては拓影図が可能な６点を図示した。出土遺物から判断して、今回のトレンチ調査区も、一ノ坂遺跡の集落範囲に包括される。

○ボーリング調査区［第１図、第３図～第７図］

本遺跡は段丘下に沿って遺構を構築することから、今回の調査に対してもこの場所に集中してボーリング探査を実施した。最初にＴ１とＴ２を南北に設置し、このラインを基準として東西南北に４～５ｍの間隔で標準となる地点を設定した。「○」の場所が標準地点であり、必要に応じ間隔をせばめる方法で調査を進めた。その結果について、第４図～第６図に示した。１～17の各地点について説明を加える。地点については第３図を参照願いたい。

１の地点は連房型竪穴住居跡が確認された箇所のすぐ南側にあたる。どこから、次の遺構が始まるのかを重点におき、14～17やＡ～Ｅの地点にもボーリング探査をおこなった。さらに一ノ坂遺跡が活動していた時期の段丘上場の把握も重要な要素との認識にたち、その確認にも合せて図示することにつとめた。



第 6 図　一ノ坂遺跡第 8 次調査区土層柱状、土層想定図(3)

１Ｄ地点及び17地点から赤褐色土が認められ、この地点から遺構が（住居跡）存在、始まるものと想定されるに至たった。しかも、覆土が50㎝以上あるものと理解され、保存状況はきわめて良好と判断される。また、ボーリングを重ねることにより、本来の上場も推測され、現況よりも約10ｍ西に位置することが明らかになった。後世の土砂移動によるものである。

２の地点からは赤褐色土は認められなかったが、採集した暗黒褐色に少量の炭化物が含まれており、赤褐色土以外の遺構覆土と類以することから、この地点も遺構が存在するこのと推測される。

３の地点は盛土が1.5ｍあり、赤褐色土が３Ｃから３Ｄにかけて確認された。この地点も、遺構が存在することはまちがいないと想定される。

４の地点は黒褐色土の盛土及び耕作土が１ｍ前後を有すものと推測され、段丘の傾斜が発達している箇所と想定される。この箇所からも赤褐色土が採集された。

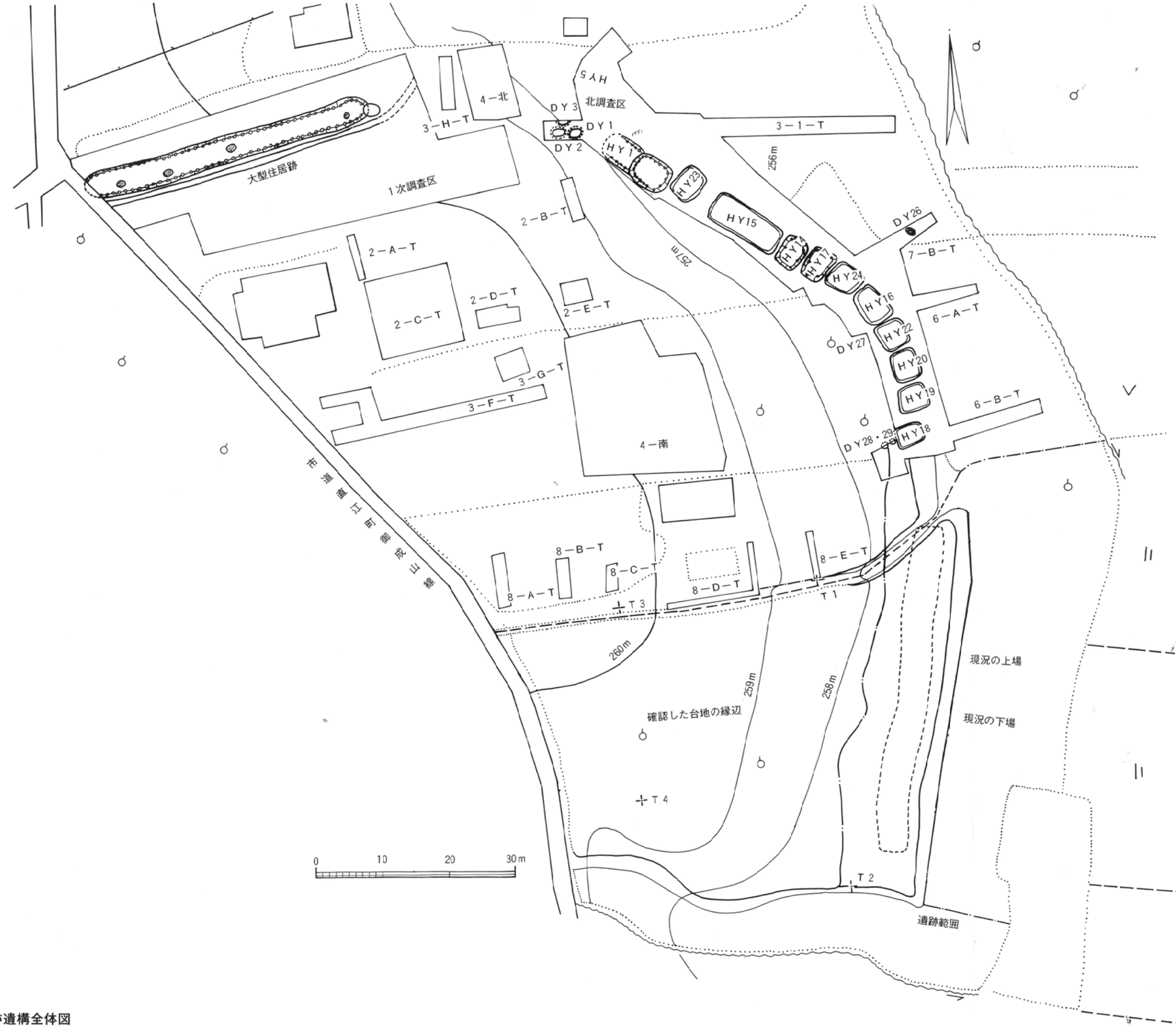
５の地点からも赤褐色土が採集されている。段丘斜面はゆるやかな状況を呈す箇所と考えたい。また５Ｅ地点からも赤褐色土が採集されている。赤褐色土が分布する地点を平面形状に見ると段丘下場に沿て帯状に認められる。５Ｅ地点は、東にづれることから、遺構（住居跡）とは想定するには問題が残る。

６の地点からも段丘直下に赤褐色土を確認した。７の地点は赤褐色土が東方に延びる状況を呈す。８、９、10の地点まで赤褐色が認められた。11、12地点は赤褐土は認められず、10Ｂ布近で遺構は終了するものと想定される。以上が段丘直下及び緑辺に対するボーリング結果であり、これらの事項から、第３図に示した遺構の存在が明きらかになったものと想定したい。

ただし、これらの遺構（住居跡群）が、第１次調査で確認した大型竪穴住居跡になるのか、第６次、７次調査で確認した連房型竪穴住居跡、あるいは両者とはちがう竪穴住居群になるかの三通りの考えが成立する。この点については、今後の課題としておく。

Ｔ３～Ｔ４のラインは段丘上であり、耕作土も浅く、直下に地山が認められる状況であった。このラインの東側も同様な状況を呈し、他の地区と同様に今回の調査区においても、段丘上には遺構は存在しないものと考えられる。

舌状台の緑辺も、現況とはかなり相異する様相を有しており、多量の土砂が西から東に移動して、果樹園を造成したも結果と言よう。偶然にも遺構群が段丘直下に位置することから、良好な保存状態で今日に至ったものと言えよう。



第７図　一ノ坂遺跡遺構全体図

4．出土遺物

今回の調査区は前述したように、大半が果樹園で占められることから、ボーリング探査が主体であり、遺物はＢトレンチからの出土だけであった。遺物の総数は80点であり、土器片34点、剥片44点、凹石１点、磨斧の破片１点となる。

土器、石器、礫器に分け入説明した。

○土器［第２図］

54点の中で拓影図が可能な土器片は図に示した６点だけであった。出土地点は図に示した。１～３は突刺文、横位、斜位の沈線文を配した土器群で、口縁部片である。２は内湾する器形を有し、焼成は良好で暗褐色を有し、胎土に小粒の石英砂を含む。口屋部に横位の短沈線を配し、斜位、横位、曲線を用いて文様を構成する土器群と考えられる。

１～３の土器片には、蕨状圧痕撚糸文及び横位の撚糸圧痕文は認められない。縄文原体を使用するかわりに、ヘラ状工具や棒状工具を用いて、蕨状撚糸圧痕文や撚糸圧痕文を表現したものと理解され、当市で出土している窪平遺跡ａ群３類土器に類以する。

１～３の土器群は一ノ坂遺跡においては最も古い時期に位置する。しかしながら、４のループ文と混在して出土しており、窪平遺跡のａ群３類土器よりも時期が若干下がるとも考えられる。ちなみに窪平遺跡の土器群の中にループ文は混在していない。すなわち蕨状撚糸圧痕文→蕨状撚糸圧痕文＋沈線文→沈線文の編年が可能である。

本市の代表的な前期初頭の遺跡で言えば、万世町八幡原No26遺跡（堂森Ｂ遺跡）次に成島町の窪平遺跡そして矢来地区に所存する一ノ坂遺跡となる。

５、６は羽状縄文で、胴部及び底部片と考えられ、胎土が２、３と類以するので同一個体片とも考えられる。

石器は二次調整を加えた剥片４点、チップ32点、剥片８点、磨斧の破片１点が出土している。二次調整を加えた剥片の中には尖端部が欠損した小形の石錐１点、欠損面を有す両面調整の石器３点がある。

磨斧の破片は緑色泥岩を素材に用いて、研磨した磨製石斧の破片であり、刃部の破片と解釈される。破片から推測して、磨斧の刃部を再調整する際に剥離された破片であろう。礫器として片面に凹部、両面に磨面を有す形態で小形の河原石を素材としている。

5．ま と め

平成元年度（1989）から開始した本遺跡の発掘調査も今年度で６年目をむかえ、今回の第８次調整をもって大型住居跡周辺の確認調査を、終了する予定である。一連の調査から得られた成果を吟味し、本遺跡の性格、意義、課題に分けて述べまとめとしたい。

○性　格

大型竪穴住居跡を中心に約141万点の遺物が出土している。その大半は石器であり、石鏃、石錐、両尖匕首、石匙の４種類と白玉の完成品や失敗、断念さらに製作途上品が多量に認められた。とくに注目されることは、失敗や断念の未完成石器から製作工程が復元されることである。

また、一ノ坂遺跡で製作された石器は、遺物の追跡調査により、県内外で発見されており、関東地方や中部、東北南部地方に流通していたことが判明している。本遺跡は、石器製作と専業とした石器工房集落であることは明確である。

第８図に示した大型竪穴住居跡は石器製作の工房跡、連房型竪穴住居跡は石器製作をしていた工人の居住跡（宿舎）と理解される。集落が活動していた様相を下部の遺跡配置図から復元したのが上部の復元想定図である。縄文時代において、連房型竪穴住居跡の発見はこれまで類例がない。

○意　義

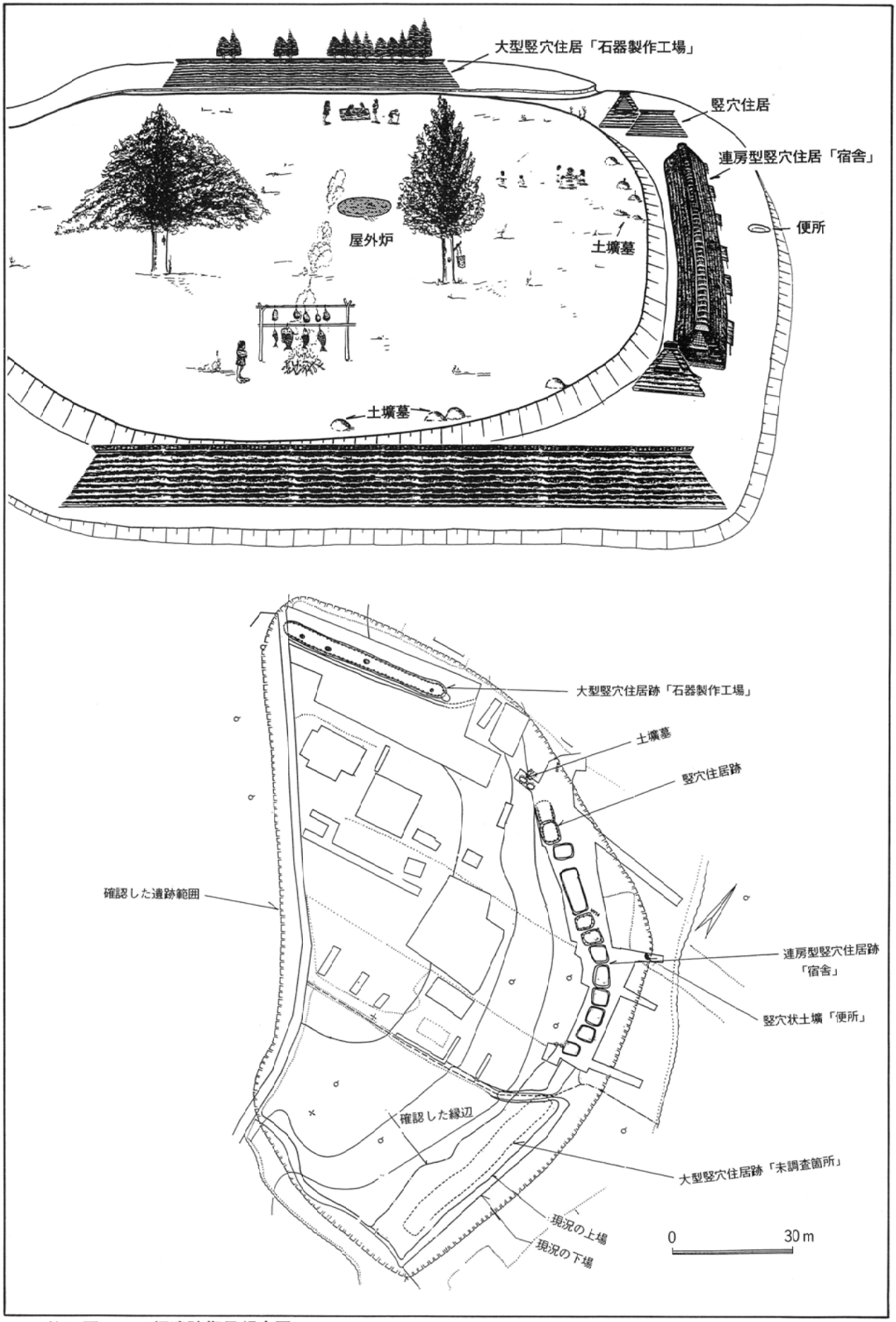
一ノ坂遺跡は、全国でも類例のない石器製作を専業とする石器工房集落といえる。石器工房で製作された石器は、断念、失敗、剝片等を含めた全ての石器を工場内に埋め戻し、クルミを焼いた炭化物を全面に敷き詰めてカモフラージュしており、技術の流出を極力留める配慮がみられる。

さらに、県内外に石器が流通していることは、製品（完成石器）を運搬する集団の存在や専門集落、狩猟集落といった分業化が既に縄文前期初頭に成立していたと推測され、縄文時代を再検討する発見と言えよう。

○課　題

一ノ坂遺跡で製作された石器の流通経路の究明や、石器製作のより詳しい調査が望まれる。平成７年度の調査報告書作成と並行しながら、全国的にも貴重な一ノ坂遺跡の保存や保護、活用も課題となる。

最後になりましたが、一連の調査に際にて、御協力いただきました地権者各位に心から御礼申し上げます。



第 8 図　一ノ坂遺跡復元想定図

参 考 文 献

1975　米沢市八幡原中核工業団地予定地内　　米沢市教育委員会
　　埋蔵文化財調査報告書第１集　52頁～69頁
1990　遺跡群細分布調査報告書第３集　18頁～25頁
　　米沢市埋蔵文化財調査報告書第27集　　米沢市教育委員会
1991　一ノ坂遺跡発掘調査概報第１集
　　米沢市埋蔵文化財調査報告書第30集　　米沢市教育委員会
1992　一ノ坂遺跡発掘調査概報第２集
　　米沢市埋蔵文化財調査報告書第35集　　米沢市教育委員会
1993　一ノ坂遺跡発掘調査概報第３集
　　米沢市埋蔵文化財調査報告書第38集　　米沢市教育委員会
1994　一ノ坂遺跡発掘調査概報第４集
　　米沢市埋蔵文化財調査報告書第40集　　米沢市教育委員会
1994　窪平遺跡、第Ⅰ次・第Ⅱ次発掘調査報告書
　　米沢市埋蔵文化財調査報告　　米沢市教育委員会

一ノ坂遺跡調査一覧表

調査年度	事業内容	調査年月日	調査面積	調査所見	備考
平成元年 第一次調査	・宅地造成に関わる調査（保存箇所）	5／12～ 6／30	800㎡	旧河川段丘下部から大型住居跡を確認した。	遺物は石器類を中心に約137万点以上出土している。
平成元年 第二次調査	・河川段丘上を宅地造成に関する調査	2／22～ 3／3	200㎡	河川段丘上は遺構は確認されなかった。	石匙1点、土器片2点、剝片20点
平成2年 第三次調査	・遺跡範囲確認調査（中央部から東側）	4／9・ 4／10 5／31～ 6／14	200㎡	段丘の斜面面より土壙墓3基が出土されている。 土壙墓内から白玉と石匙、石鉄が副葬品として認められた。	平成元年度確認の大型竪穴住居跡は山砂で埋め戻して現状保存。 土器、石器合わせて14,474点
平成2年 第四次調査	・遺構分布確認調査	11／1～ 12／21	674㎡	旧河段丘の下部より竪穴住居跡5棟が3時期に亘って検出された。	石鏃14点、他石器11,967点、土器片1,849点
平成3年 第五次調査	・遺跡範囲確認調査（東側から南側） ・住居跡分布確認調査	11／5～ 11／28	200㎡	前年度の南側を中心として住居跡の広がりを確認したところ、新たに8棟の住居跡が認められた。 住居跡は概ね4基の切り合いを有しており、土層の観察から時間的な相違は認められなかった。	遺物として石鋲14点、石鏃2点、石匙23点、土器破片総数1,972点
平成4年 第六次調査	・遺跡範囲確認調査（西側から北側） ・下層遺構確認調査	10／28～ 11／20	270㎡	これまでの住居跡の下層にも別の住居跡が存在することが解り掘り下げを実施したところ、住居跡が極端に隣接した5棟認められた。仮称「連房型竪穴住居跡」とする。	遺物としては石鋲2点、石篦2点、石匙5点、土器破片数1,849点
平成5年 第七次調査	・連房型竪穴住居跡の範囲確認 ・包含層の確認	4／15～ 6／19	630㎡	連房型竪穴住居跡の範囲を明確にするために、前年度の調査区を拡張して調査した結果、10棟の竪穴住居跡を連ねた全長約50ｍの住居跡と判明した。他に土壙4基とピット1基が確認されている。	住居跡1棟を掘り下げた。遺物としては、石鋲2点、石匙10点、土器片700点。
平成6年 第八次調査	・補足調査（南西側）範囲確認調査	4／18～ 5／10	120㎡	果樹園であるため遺構の状況が不明であった南側をボーリング調査で確認、大型住居の存在が判明した。	最終報告書に向けた膨大な遺物の整理を中心に行う。

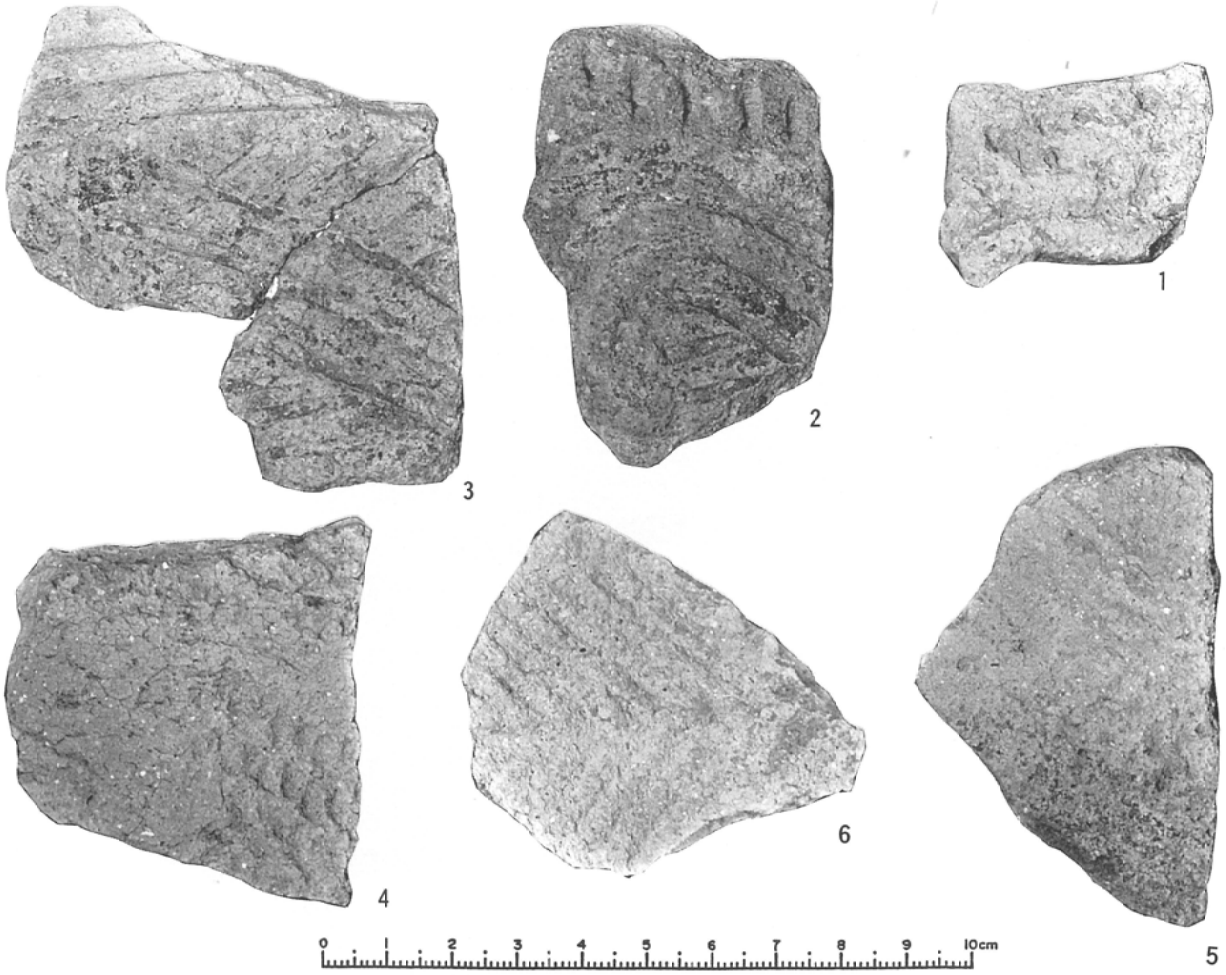
報告書抄録

ふりがな	いちのさか
書名	一ノ坂
副書名	一ノ坂遺跡発掘調査概報
巻次	第5集
シリーズ名	米沢市埋蔵文化財報告書
シリーズ番号	第48集
編著者名	菊地政信
編集機関	米沢市教育委員会
所在地	〒992　山形県米沢市金池三丁目1－55　TEL 0238－22－5111
発行年月日	西暦　1995年3月30日

所収遺跡名（ふりがな）	所在地（ふりがな）	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東緯	調査期間	調査面積 m²	調査原因
一ノ坂（いちのさか）	山形県米沢市（やまがたけんよねざわし）矢来（やらい）一丁目1073－4号	6202	1207（米沢市遺跡番号e－147）	37度49分13秒	140度4分9秒	19940418～19940510	65	一ノ坂遺跡「大型竪穴住居跡」周辺の開発予定地確認調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
一ノ坂	集落跡	縄文時代	竪穴住居跡	縄文土器 石器	縄文時代前期初頭の石器工房跡である。石器工房跡は全長43.4ｍで日本最長の規模を有す。宿舎跡と推測される連房型竪穴住居跡は日本で始めて発見され、8棟で構成される。遺物も石器を中心に約149万点出土している。

写　真　図　版



▲第８次調査Ｂトレンチ出土土器（上段）　▲調査風景（南方から）（下段）

▲Bトレンチ遺構完掘状況（南方から）

▲Bトレンチ土層状況（東方から）

米沢市埋蔵文化財報告書第48集

一　ノ　坂

一ノ坂遺跡発掘調査概報
第５集

平成７年３月24日　印刷
平成７年３月31日　発行

発　行　米沢市教育委員会
米沢市金池三丁目１－55
TEL　(0238)22－5111内線7504

印　刷　㈱よねざわ印刷
米沢市城西二丁目３－72
TEL　(0238)21－1212